

## ●小中9年間の一貫した指導

令和元年度末に目指す児童生徒の姿について、校区の教員の意見を集約し、道徳教育推進教師が整理した。整理したものを4月の校区校長会で検討及び確認し、各校において道徳教育推進教師が職員に周知した。

### 1 児童生徒の姿の明確化

#### (1) 校区で目指す児童生徒の姿の明確化

今年度4月に校区校長会を開催し、校区で目指す児童生徒の姿を確認しました。研究主題の「自他ともに大切にすること」という児童生徒の姿を本校区では、次のように整理し、取組を進めています。(表1)

表1 <自他ともに大切にすることの児童生徒の姿>

	自分を大切にすることの姿	他者を大切にすることの姿
小学校 低学年	・明るく素直な心を持ち、よいと思うことを進んで行おうとする姿。	・相手が気持ちよくなる言葉遣いをしようとする姿。
小学校 中学年	・粘り強く努力することで、自分の長所を伸ばそうとし、明るい心で伸び伸びと生活できる姿。	・友達のことを自分のこととして考え、友達と互いを助け合うことができる姿。
小学校 高学年	・自分の長所や短所を認め、自己の向上のための目標を持ち、伸長・改善するための努力ができる姿。	・広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、相手の立場を考えた行動や言動ができる姿。
中学校1～3年	・自分の考えや気持ち、個性を理解し、それを肯定的に受け止めている姿。 ・自分の理想像を持ち、その実現のために(仲間と共に協力して)一歩ずつ努力している姿。	・相手の考えや気持ちを想像し、相手のために自分ができようことを考え、行動している姿。

#### (2) 授業の中で目指す児童生徒の姿の明確化

『授業の中でめざす児童生徒の姿』を明確にし、児童生徒の評価の視点をもとに、指導と評価の一体化を意識し、授業改善を図っています。(一部抜粋)

##### ●「道徳的価値の理解を①自分とのかかわりの中で深めているか」

ア 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどうするかな。」と考えている。

イ 「今までの自分はこうだったけど、変えていこうかな」と行動や考えを見直している。

ウ 自らの考えを持ち、友達と比べて議論する中で、よりよい考え・行動の意味に気付いている。

←「ぼくは、こう思っているんだけど、友達の意見を聞くとそっちの方がいいな。」

エ その価値理解はできているが、「そうは言っても、自分には、同じようにすることはなかなか難しいな。」と考えている。

##### ●「一面的な見方から ②多面的・多角的な見方へと発展しているか」

オ ある状況の中で、様々な視点からよりよい考え・行動を見つけようとしている。(多面的)

カ ある状況の中で、異なる立場の人の見方を考えた上で、その場におけるよりよい考え・行動を見つけようとしている。(多角的)

キ 複数の道徳的価値の対立(葛藤)が生じる場面の中で多面的・多角的に考えている。

←「○○してはいけないんだけど、□□してしまうな。」

##### ●「どのような生き方をしたいのか考え、③自己の生き方を見つめているか」

①エから発展して

ク その価値の難しさを乗り越えて、それが「できるようになりたいな。」と思っている。

工夫については道徳通信で周知するとともに、道徳教育推進リーダーが校内及び校区訪問で授業検討をする際、工夫を取り入れるよう努めている。また、校内研修においても、これらの工夫を話題にし、授業の工夫として職員に意識づけている。

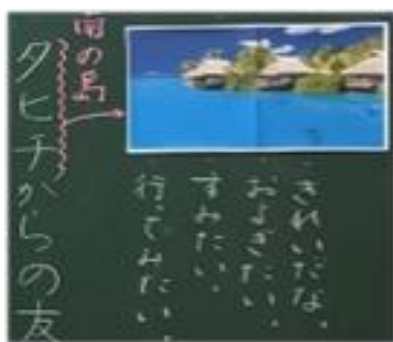
## 2 「道徳科」の指導の充実【授業づくり】

### (1) 導入の工夫

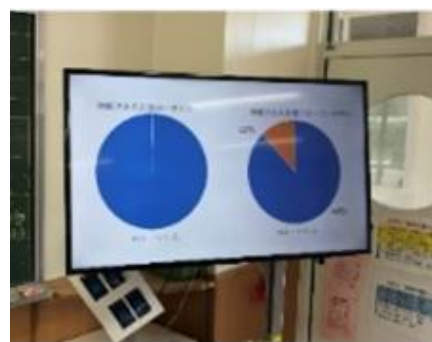
導入は、児童生徒が教材の世界に入れるよう、意識付けや方向付けを行う段階とし、教師の演技、実物の写真やアンケートの提示などを行っています。情報過多にせず、選り抜かれた情報で想像を膨らませたり、問題意識を持たせたりするように工夫しています。



導入における教師の演技



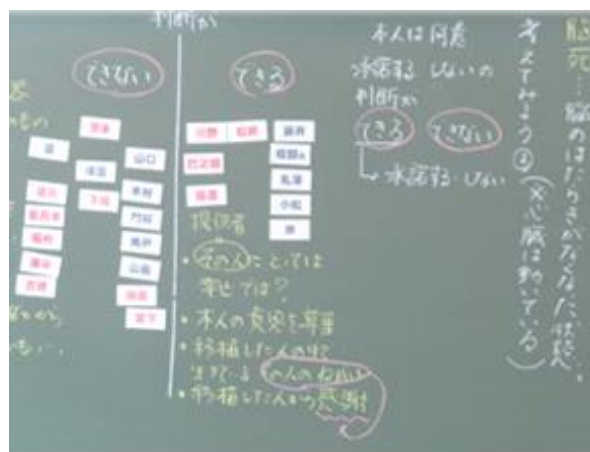
実物の写真提示



アンケート提示

### (2) 自分の考えを明確に示させる工夫

授業では自分の考えを明確にした上で、他者の考えを理解したり、自分の考えの変容を視覚的に捉えたりすることができるように工夫しています。



### (3) 終末の工夫

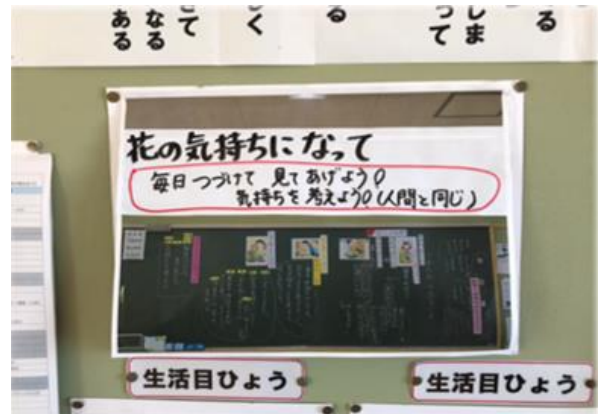
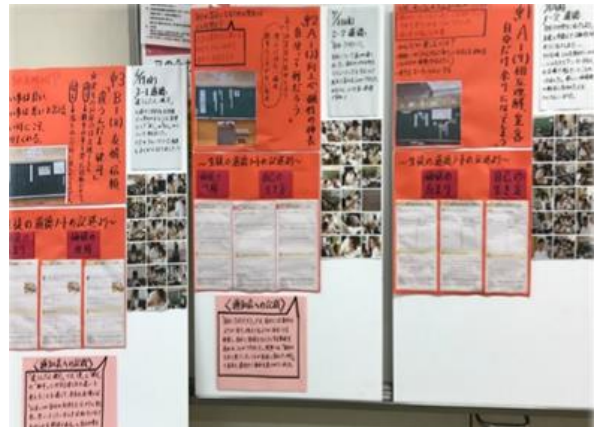
教師の説話等を行い、ねらいにある道徳的価値に対する思いや考えを、自分の言葉でまとめさせ、道徳ノートやワークシートに書かせることに取り組んでいます。



### 3 道徳教育を充実させるための環境づくり

#### (1) 学びと生活をつなぐ工夫

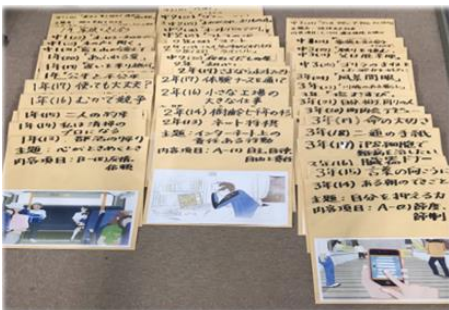
児童生徒が授業で学習したことを普段の生活で振り返り、生活に生かしていけるように、授業で学んだことをまとめ、教室や掲示板に掲示することに取り組んでいます。



#### (2) 教材の準備、整理、保存の工夫

来年度以降の授業づくりの参考にするため、道徳教育推進教師が中心となり記録や教材などを整理・保存しています。

これらの資料は、日々の授業が充実するよう各教員がすぐにアレンジして使えるように配慮し、道徳教育推進教師が整理している。中の教材が一目でわかるように、袋の表に教材名、主題、内容項目を記載し、挿し絵を張り付けている。(上段) また、授業記録のファイルは職員室に配架し、各教員がすぐに手に取れるようにしている。(下段)



授業記録表		授業記録表	
学年	単元	学年	単元
3年(甲)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(甲)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(乙)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(乙)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(丙)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(丙)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(丁)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(丁)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(戊)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(戊)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(己)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(己)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(庚)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(庚)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(辛)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(辛)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(壬)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(壬)	命知(Chino)年 道徳 3年2組
3年(癸)	命知(Chino)年 道徳 3年2組	3年(癸)	命知(Chino)年 道徳 3年2組

授業記録表の下部には、授業の進行状況や生徒の反応を記録するための欄が設けられています。また、授業の振り返りや今後の授業改善のためのメモも記入されています。

#### 4 道徳通信による、効果的な指導方法の共有

道徳教育推進リーダーとして、定期的に道徳通信を発行し、校区の教員に配付しています。授業の実践事例や授業づくりに役立つ情報などを発信することで、効果的な指導方法の共有を図っています。

道徳通信は、校区の道徳教育推進教師が職員に通信を配付するとともに、各校で内容の概要を伝え職員に周知している。道徳通信には、今年度の重点取組を踏まえ、授業づくりの視点を中心に掲載するようにし、取組の推進を図っている。

**小中連携道徳通信 4号**

発行所：江田島中学校区 道徳教育推進リーダー 江田 浩志

◆座席配置の工夫

3月1日(火)江田島中学校1年生の授業では、児童朝礼の都合で異なる座席配置になるよう工夫がされていました。児童朝礼、午いの都合で異なる座席配置にすることで、互いの発言や発声、手振りを遮らず・聞くことで互いの考えが伝わりやすくなります。さらに、授業中の板書発表は、「～さんの考えを聞いてみるはいるかな」「～さんの考えについて、みんなはどう思うかな」「もう少し詳しく聞いて聞いて。」など「つなげる」「広げる」「深める」を意識した発言を行い、互いの意見を比較対照することを意識しておられました。意見を出し合うためには、座席配置の工夫だけでなく、教師が子どもの意見を「つなぐ」ことを意識することも大切です。

◎多様で効果的な道徳の指導方法について

◆道徳振り返りシートの活用

既述。江田島小学校で、評定の審査を明確にした授業を行い、授業改善につなげるため、授業の前に道徳振り返りシートを配付していただき、それを基に授業を行っています。

～江田島小学校の取組の例～

- ◎視点を明確にすることで、授業の輪が広がることになった。(目標は内容項目のずれがあった)
- ◎見取りの審査が明確になることで、児童の見取りがしやすくなった。それにより、学習状況の評価もしやすくなった。
- ◎短期と長期が一致になっているのがよい。一つひとつの短期は、「授業との関わりの中で考えさせること」(多面的・多角的に見えさせること) 長期が授業の中で明確になり、児童の学習に対して有効な役割ができるようになってきた。

◆導入の工夫

導入では、子どもが資料の理解に入るよう、意見付けや方向付けを行います。実物の写真、教師の解説、アンケート結果などによる方法があります。いずれにしても、留意事項に必ず、通り表かれた言葉で発言を促さなければなりません。別冊巻末を付したりますことが大切です。

◆ICTの活用

3月4日(金)江田島中学校2年生の授業では、新学習指導要領を踏まえるためにICT機器を活用しました。ICT機器を活用し、学習内容を理解したことで、中心児童が全員でノートへの記述の視点を長く保ち、非よでは記述内容を学習全体で振り返る時間を確保することができました。

◆ICTの活用

3月4日(金)江田島中学校2年生の授業では、新学習指導要領を踏まえるためにICT機器を活用しました。ICT機器を活用し、学習内容を理解したことで、中心児童が全員でノートへの記述の視点を長く保ち、非よでは記述内容を学習全体で振り返る時間を確保することができました。

◆終末の工夫

前回は、おらいいにある道徳時間に対する思いや考えをまとめたためにも、今後の授業について改善です。方法は、教師による解説(解説を押し付けにならないよう留意、問いとして話し促される感度)を、ノートやリークシートに学習を通して気付いたことや新たに気付いたことをまとめるといった方法があります。

◆終末の工夫

前回は、おらいいにある道徳時間に対する思いや考えをまとめたためにも、今後の授業について改善です。方法は、教師による解説(解説を押し付けにならないよう留意、問いとして話し促される感度)を、ノートやリークシートに学習を通して気付いたことや新たに気付いたことをまとめるといった方法があります。

### ●成果と課題

- 江田島中学校区事務局会を設置し、協議の場を設定することにより、校区で目指す児童生徒の姿や授業で目指す姿の明確化になり、小中9年間の一貫した指導に向けた校区の推進体制を構築するとともに、道徳教育の充実につながる取組の推進を図ることができた。
- 校区の道徳教育推進教師と連携を図りながら、小中9年間の一貫した指導について各校の教員に取組を周知することで、授業改善が図られている。
- 市内の道徳教育推進教師を対象に実施している江田島市道徳教育推進協議会の企画・運営に携わることで、道徳教育推進教師の役割や江田島中学校区の取組を周知し、道徳教育の推進を図ることができた。
- 今年度の重点取組「ねらいを明確にした指導と評価の一体化」について、授業実施前に評価の視点を明確にすることで、学習状況を見取る視点が定まり、授業改善につながっている。
- ▲ 今後も、道徳教育推進教師が中心となり、授業における教材分析や発問の精選、ペアやグループでの対話などを視点を、各校の道徳科授業のさらなる質の向上を図っていく

必要がある。